

ArcSuite

企業の情報資産を、一元的に管理・共有

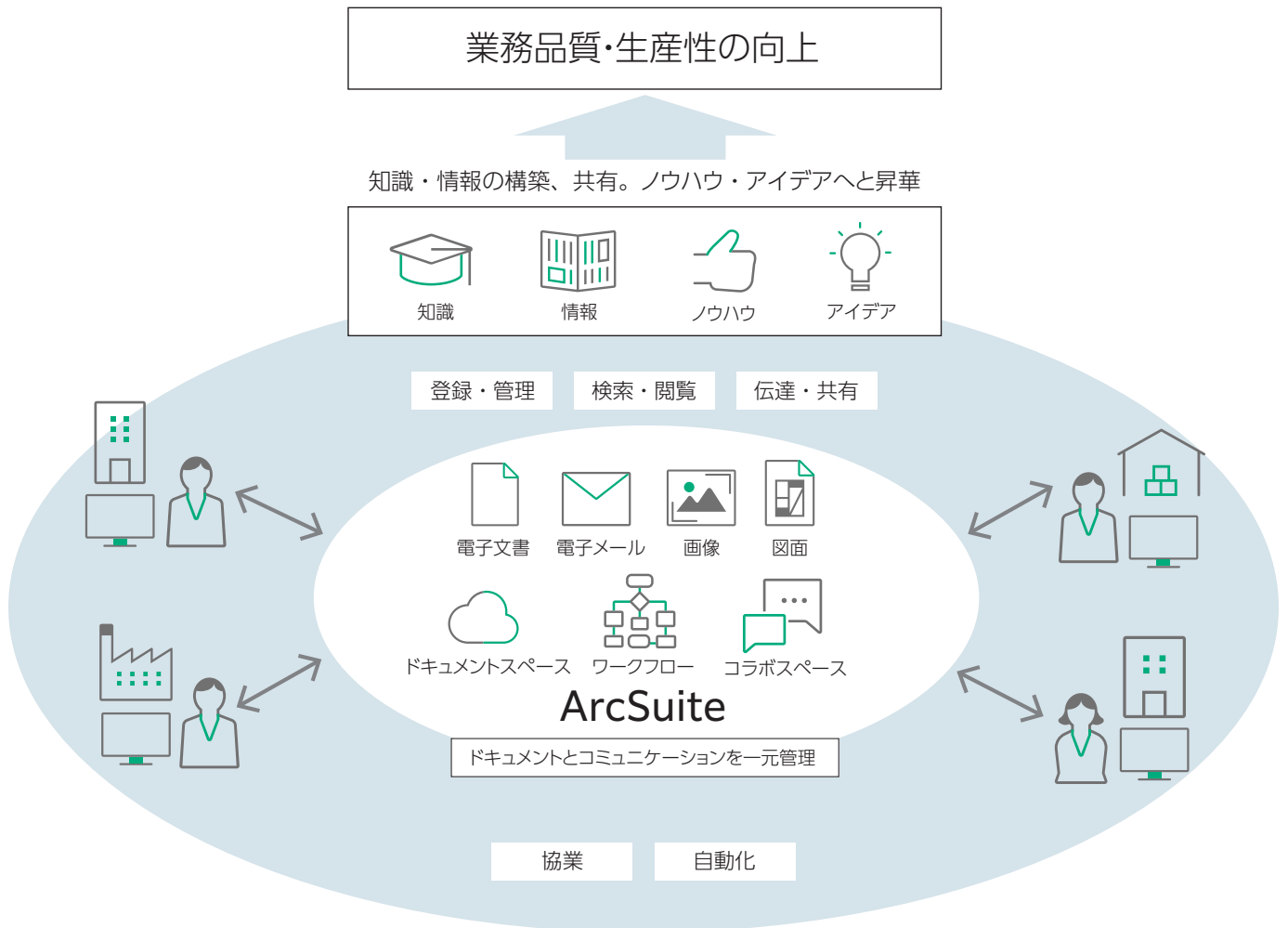


情報をしっかり管理できていますか？
組織や個人に蓄えられた知識や知恵を
有効に活かせていますか？



グローバル化やボーダレス化が進展し、競争が激化する企業活動。
リードタイムの短縮やコストの低減、情報セキュリティの確保…など、
要求がさらに厳しさを増す中で、業務の品質や生産性を高めていくためには
図面や文書といった情報資産の管理はもちろん、
それぞれの組織や個人に蓄えられた知識や知恵を有効に活用していくことが重要なポイントです。

ArcSuite



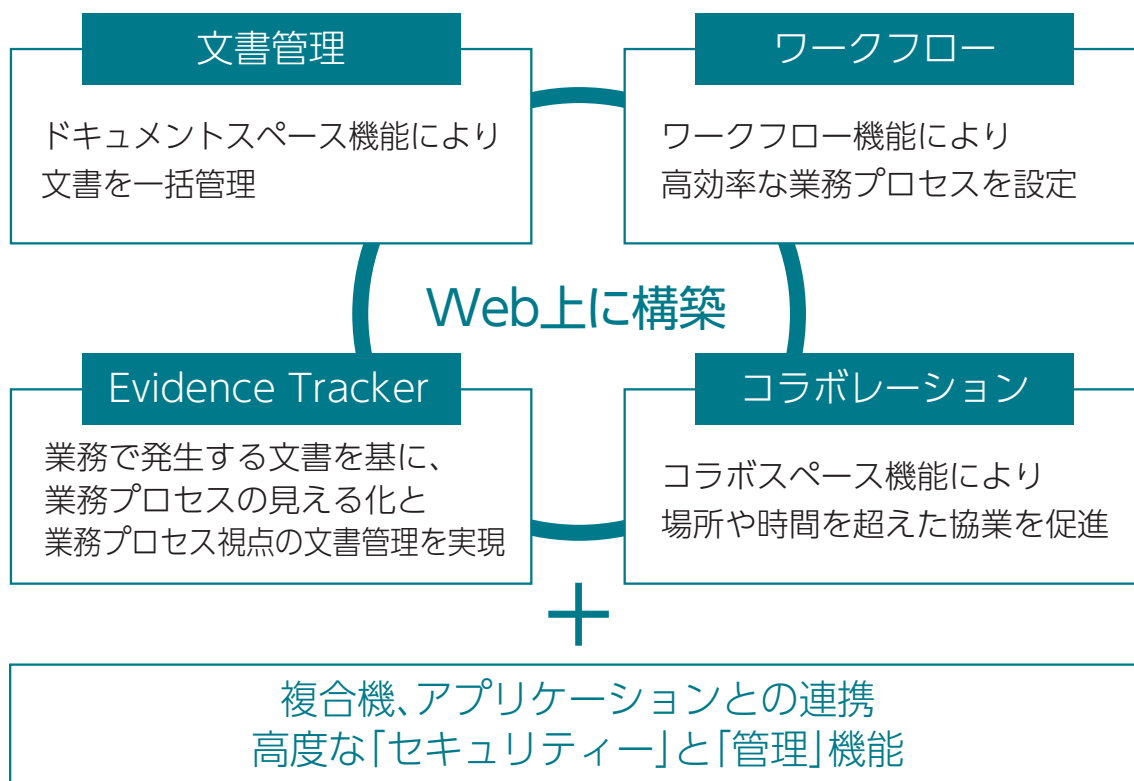
「ドキュメント」と「コミュニケーション」を一元管理。
企業の情報活用を促進し、業務の品質および生産性の向上に寄与します。

ArcSuiteは、企業のさまざまな課題解決に向け、
 当社が現場で培ってきた知見をもとに開発したWeb統合情報管理システムです。
 文書や図面にとどまらず、個人のノウハウや複数のタスクにまたがる作業の経緯も
 わかりやすく可視化しながら管理・共有できる場をネットワーク上に構築します。
 高い競争力が求められる企業活動を、強力にバックアップします。

主な特長

- 3モデル用意
スモールスタート可能
- 「4つの視点」で
企業の課題を解決
- 高度な検索性
- 複合機を介し
紙文書の入出力も迅速
- DocuWorksとの
連携もスムーズ

「4つの視点」で課題を解決。
安全で効率的な運用を支援する機能も充実。



情報の共有と伝達を、セキュアに、効率的に実現。

ArcSuiteは、「文書管理」「ワークフロー」「コラボレーション」「複合機・アプリ連携」の4つの視点で構成されたシステムです。これらの機能を組み合わせて、ドキュメントの管理、活用、部門や企業間での情報の配信、モバイルの活用…など、セキュアに、効率的に実現します。

3つのモデルを用意。

お客様の規模や用途に合わせて導入いただけるよう「Startモデル」「Standardモデル」「Enterpriseモデル」の3つのモデルを用意しています。

○:標準、△:オプション、—:非対応

	Startモデル (図面/文書管理に特化)	Standardモデル (オプション選択可能)	Enterpriseモデル (主要機能を標準装備)
文書管理	○	○	○
ワークフロー	—	△	○
コラボレーション	—	△	○
Evidence Tracker	△	△	△

たとえば、こんなことでお困りではありませんか？

設計部門で…

最新版の管理があいまいで
後工程でミスが発生…

同じような図面を
何度も作り直すことに…



ドキュメントスペースで
図面や文書を管理



ドキュメントスペース

ドキュメントスペースは、ArcSuiteの基本である文書管理を行う機能です。Webブラウザを使って文書の登録やダウンロードがスムーズに行え、アクセス権の設定も可能です。多彩な検索機能で図面の再活用が容易になるうえ、たとえば同じキャビネットに同一図面のデータを登録すると自動的にバージョンを上げて表示。最新版が一目でわかり、取り間違いなどのミスも抑止します。

生産技術部門で…

工程表が多岐にわたり
管理が面倒だ…

個人の経験や勘が頼りで
過去の資産を活かせない…



ワークフローで
業務の流れを把握



ワークフロー

ワークフローは、業務プロセスの効率化とガバナンス強化に役立つ機能です。これによりドキュメントの申請から検図、承認、登録までのプロセスをすべてWebブラウザ上で管理できます。進捗管理機能*と連携し、工程の中でどんなドキュメントが必要になるか可視化することも可能。ドキュメントと進捗管理を紐づけることで、過去の成果物の参照を容易にし、部門業務も効率化します。

*Evidence Trackerが必要です。

品質管理部門で…

クレーム対応に従来の
ノウハウを活かせない…

解決までのやり取りや
関係者の確認も難しい…



コラボスペースで
情報のやり取りも共有



コラボスペース

コラボスペースは、Web上にコラボレーションの場を提供し、時間や場所、組織の枠を超えた協業を促す機能です。メンバー間での情報のやり取りや作業過程を可視化し、共有・蓄積することができます。やり取りの中で業務遂行のために必要な知識が得られるほか、過去の案件に詳しい人など、テーマに合わせて関連の深い人物を探し出すことも可能。埋没しがちな情報を会社資産として活かせます。

文書管理

ArcSuiteの強みは、文書の管理にとどまらず、情報の再活用を促進させること。管理体系の可視化と豊富な検索機能を備えることで、企業の情報活用を活性化します。

管理階層を“見える化”

ドキュメントスペース

キャビネット/ドロワー/フォルダー/ドキュメントといった階層構造でファイルを管理できます。版管理や履歴管理により、修正・変更の過程が容易に把握できます。

基本情報表示
属性表示
アクセス権表示
デフォルトアクセス権表示
キャビネット情報表示
コンテンツ表示
インデックス表示
画像表示
履歴表示
URL表示

No.	改訂番号	操作	改訂種別	最終変更者	最終変更日時
1	4	更新	新訂	RMS管理者	2021/02/11 19:18:44
2	3	更新	旧訂	RMS管理者	2021/02/11 19:18:35
3	2	更新	旧訂	RMS管理者	2021/02/11 19:18:25
4	1	更新	旧訂	RMS管理者	2021/02/11 18:56:26

履歴表示画面

文書の登録/編集

デスクトップクライアントによる簡易な登録と編集

Microsoft® Windows® のデスクトップ環境と同じように、文書の登録や取り出しがドラッグ&ドロップで行えます。また、ドキュメントスペース上の文書を直接編集したり、属性を一括更新することも可能です。

ArcSuite領域
ローカルPC領域

PDF
DOC
XLS

デスクトップクライアント画面

多彩な検索性

属性検索、全文検索

文書や図面に付与された文字列、日付などの属性から、目的の文書を検索できます。また、全文検索時のキーワードを検索結果でハイライト表示することも可能です。

名前	演算子	属性内容	入力	追加(A)
名前	いずれか含む			削除(D)
オブジェクトカテゴリ	等しい			クリア(C)
オブジェクトタイプ	いずれか		入力	上へ(U)
コンテンツタイプ	いずれか		入力	下へ(D)
最終変更日時	指定		入力	
最終変更者	いずれか		入力	

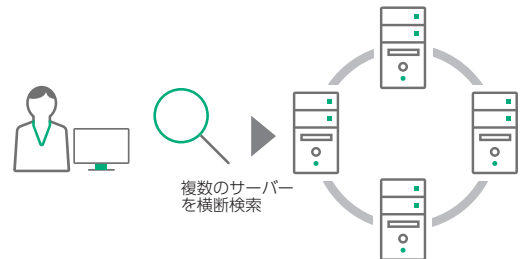
属性結合条件: AND OR 論理式(L)

英文字大小区別 最新版のみ(O) 行番号: [] AND OR ()

属性検索画面

ArcSuite 統合検索サービス

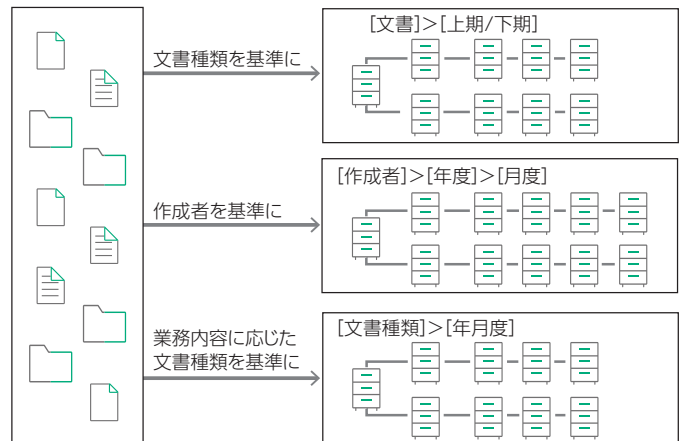
外部のファイルサーバー*で管理されている情報を定期的に収集し、データベースへコピーまたはキャッシュとして登録。これにより1回の操作で複数のサーバーを横断して検索できます。



*Startモデルは非対応、Standardモデルはオプション、Enterpriseモデルは標準。
*フォーマット形式はWindows®のNTFS形式。

分類ビュー機能

文書の種類や作成者など、文書の属性を利用して階層表示を自在に変えられます。管理方法や利用シーンに合わせて複数の異なる視点での表示が可能。部門ごとにユニークな文書体系で管理できます。



*Startモデルは非対応、Standardモデルはオプション、Enterpriseモデルは標準。

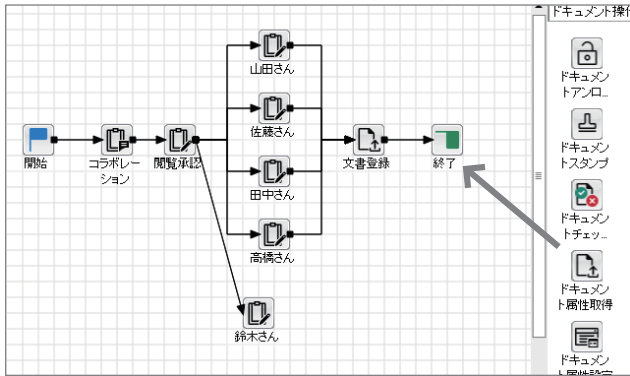
ワークフロー / コラボレーション

ArcSuiteは、図面等のドキュメントを、業務の流れやメンバーのコミュニケーションに紐づけて管理可能にすることで、さまざまなシナジーを創出します。

ワークフロー設計も簡単

アクティビティアイコン

作業アイコンをWeb上でドラッグ&ドロップするだけで、複数ルートでの合議や条件による分岐、ドキュメントスペースへの文書登録やメール通知など、ワークフローを簡単に設計できます。各ステップでの入力フォームもエディターを使って簡単に設計できます。



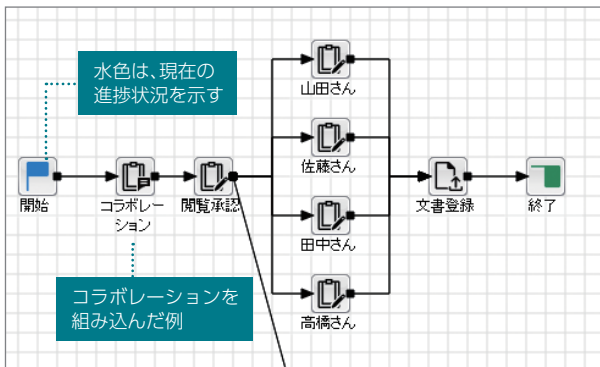
ワークフロー設計画面

進捗管理や代理承認もスムーズ

進捗状況は、ワークフロー上からグラフィカルに確認できます。また、代行者設定により不在中の代理承認も可能です。

コラボレーションもフローに組み込み

コラボスペースのタスクをフローに組み込むことができます。これまで個々に行われていた相談や確認、事前の打ち合わせといった活動もワークフローの中に組み込み、共有することが可能です。

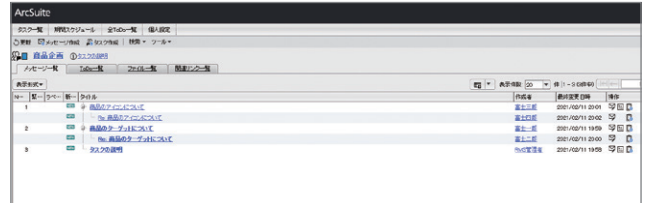


進捗状況確認画面

コラボスペースで関連情報も共有

掲示板

メンバーに向けたメッセージや活動状況報告、メンバー相互の連絡などを掲示板に書き込めます。業務に関連する電子文書、URLも掲示板にアップ可能。各自が収集した情報をメンバー全員で共有できます。



商品企画でコラボスペース掲示板の利用例

コラボレーションによる成果物を管理・保管

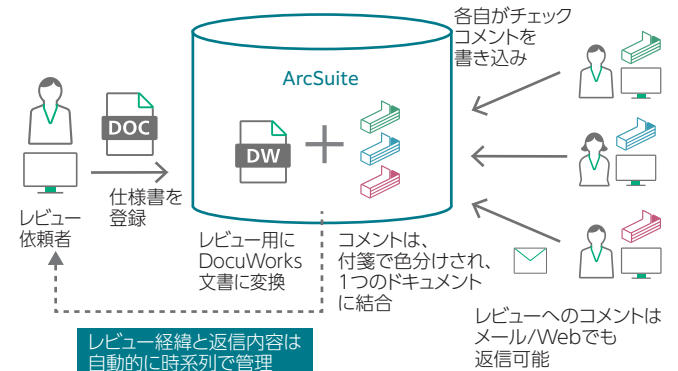
コラボレーションによって得られた文書を、再利用可能な情報としてドキュメントスペースに登録できます。コラボスペースからドキュメントスペースに登録された文書は、メンバーや経緯など、後から情報をたどることが可能です。

KnowWho 検索

メッセージやドキュメントのほか、テーマに関連の深い「人」の検索も可能です。また、アクセスランキングにより、利用度の高いドキュメントやキーパーソンを見つけやすくなります。

ドキュメントレビューオプション

文章上に追記されたコメントを、他のメンバーが閲覧している文書に自動的に反映。コメントはメールでも送信されます。マニュアルなどのレビューを複数のメンバーで行う場合にも有効です。



※ Startモデルは非対応、Standardモデルはオプション、Enterpriseモデルは標準。

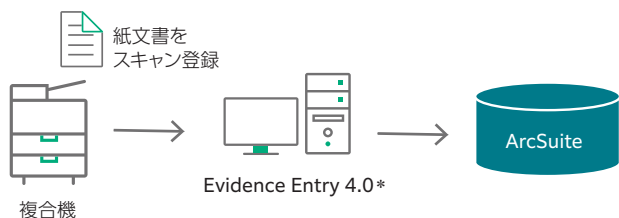
複合機・アプリ連携

複合機や、アプリケーションソフトウェアと連携することで、より使いやすく便利になります。

登録や管理がさらに便利に

複合機から

当社複合機および「Evidence Entry 4.0*」と組み合わせ、紙文書をコピー感覚で登録できます。



*別売ソフトウェア。

大量文書にも

「ArcSuiteキャプチャリングサービス*」、「ArcSuiteドキュメント一括操作ツール*」を使用すれば、大量の文書も一括で登録できます。

*オプション。

DocuWorks 対応

使い慣れたDocuWorks Desk上から、ドラッグ&ドロップするだけで簡単に文書を登録したり、ドキュメントスペース内の情報を確認・編集することができます。

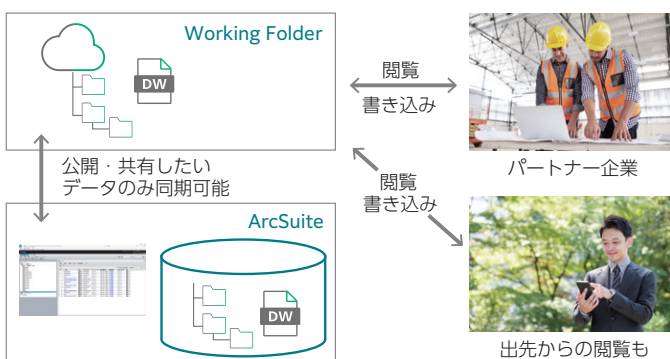
※オプションのArcSuite連携フォルダ for DocuWorksが必要です。



DocuWorks Desk画面

Working Folder 対応

Working Folderと連携し、文書の共有環境を簡単に用意することができます。ArcSuite上で公開したい文書をWorking Folderと同期するフォルダーに格納することで共有することができます。協力会社や現場といった社外との文書や図面を共有することができます。



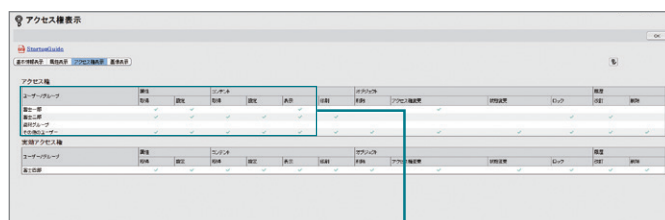
セキュリティ / 管理

強固なセキュリティを確保しつつ、システム管理者の負担効率的な運用により、本業に集中できる環境を提供します。

安全に、正確に

アクセス権を細やかに設定可能

登録文書には、属性情報やバージョン管理、閲覧・取り出し・印刷などをコントロールできるアクセス権を設定可能。また、ダウンロード後の文書の編集禁止や印刷禁止といった操作の制限も細かく設定できます。



アクセス権表示画面

ユーザー/グループ	属性		コンテンツ		
	取得	設定	取得	設定	表示
富士一郎	✓	✓	✓	✓	✓
富士二郎	✓	✓	✓	✓	✓
資料グループ	✓	✓	✓	✓	✓
その他のユーザー	✓	✓	✓	✓	✓

管理者の負荷も軽減

ArcSuite 活用状況をレポート化

キャビネットやドロワーに登録されている文書数がどれくらいあるか、どういったファイルが保管されているかを簡単にCSV形式でレポート化。図書利用計画などが立てやすくなります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	cabinetLabel	cabinet	drawer	storage											average	Target	total	
2	public	CertStore	Certificates	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\Ce											0			
3	public	CertStore	TrustAnchors	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\VCe											0			
4	public	TEST_CAB01	dw1	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											5644806		3058	
5	public	TEST_CAB01	dw2	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											111398		1904	
6	public	TEST_CAB01	recycleBin	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											0			
7	public	TEST_CAB02	dw1	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											0		1931	
8	public	TEST_CAB02	dw2	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											0		1004	
9	public	TEST_CAB02	recycleBin	E:\ArcSuite\Service\data\Repository\storage\TEST											0		1	

格納ファイルサイズレポート

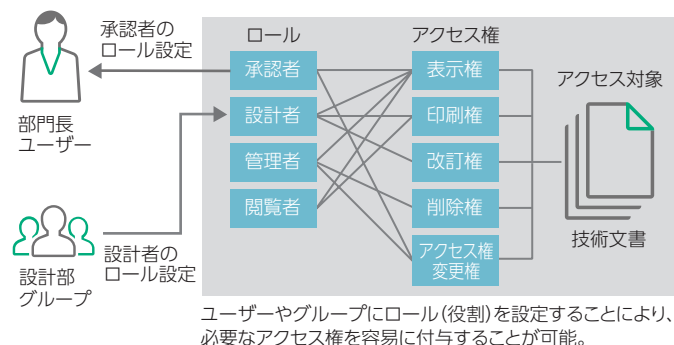
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	cabinetLabel	cabinet	drawer	TIFF	JPEG	BMP	PNG	DDD	Word	Excel	Po				CSV	HTML	XML	ot
2	public	CertStore	Certificates	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	public	CertStore	TrustAnchors	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	public	TEST_CAB01	dw1	29	4	0	0	0	27	33					0	0	0	0
5	public	TEST_CAB01	dw2	40	8	8	0	0	31	65					0	0	0	0
6	public	TEST_CAB01	recycleBin	9	0	0	0	0	5	0					0	0	0	0
7	public	TEST_CAB02	dw1	40	8	8	0	0	42	72					0	0	0	0
8	public	TEST_CAB02	dw2	20	4	0	0	0	19	17					0	0	0	0
9	public	TEST_CAB02	recycleBin	2	0	0	0	0	4	0					0	0	0	0

登録オブジェクト数レポート

にも配慮した機能を装備。

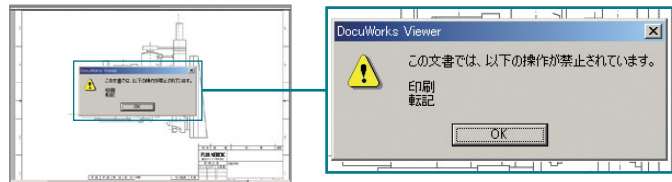
所属メンバー以外へのアクセス権の付与

アクセス権を「ロール(役割)」で管理することにより、所属部署など既成の組織に含まれないメンバーにも容易に付与できます。メンバーの異動の際にも、メンバーにロールを設定するだけで済みます。



コントロールビュー機能

閲覧者のアクセス権に応じて制限をかけたPDFやDocuWorks文書に変換します。ブラウザ内に表示したビュー上での印刷や転記の操作を制限し、情報漏洩を抑制できます。



登録文書のライフサイクルを自動管理

管理者が設定したルールを登録文書に適用して、文書のライフサイクルを自動管理できます。保管期間が終わったドキュメントは利用頻度に応じてアーカイブ保存。また、保存データは「更新/閲覧できないが検索できる状態」としたり外部メディアにバックアップすることも可能です。管理の効率化とディスク容量の削減に貢献します。

- 日時設定
- 保管期限設定による文書の削除/移動
- 文書の公開
- 担当者へのメール通知
- …などを自動化

不正アクセスを管理者へ通知

操作を監視し、必要に応じて管理者に通知できます。アカウントロック通知機能に加え、大量のダウンロードなどの一般操作の監視/通知機能を搭載しています。

以下のユーザーがアカウントロックされました。

アカウントロックされたユーザー：
uid=account lock,ou=users,dc=rdh(ロックユーザー)

アカウントロック通知機能

以下のユーザーが閾値以上の回数、操作を実行しました。

対象期間:16/04/18 17:21~16/04/18 17:31

監視項目1

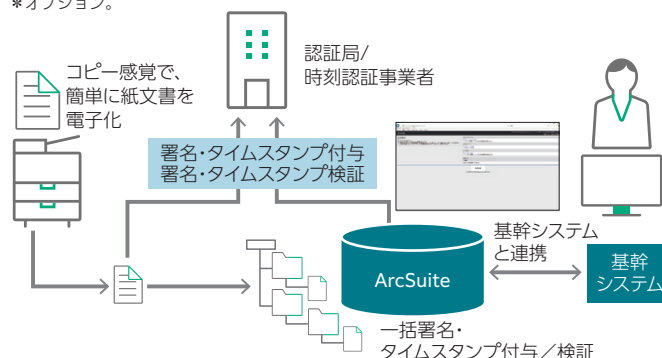
監視対象の操作:
取得(コンテンツ含む)(GetObject.WithContent)
操作の閾値:10回
操作を実行したユーザー:
11回:uid=rmsadmin,ou=users,dc=rdh(RMSAdmin)

一般操作の監視/通知機能

ArcSuite 原本性保証オプション*

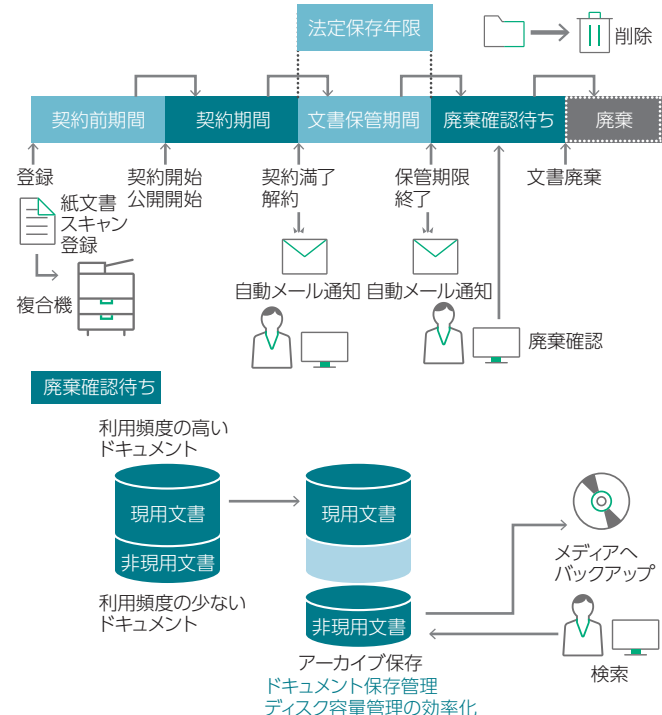
保存した文書に対する電子署名、タイムスタンプの付与/検証により、文書の改ざん検知と原本性の検証が可能になります。XAdES、PAdESにも対応。PAdESでは、タイムスタンプが1ファイル内で完結するうえ、Adobe® Reader®で参照でき、原本を広く配布したい場合に便利です。

*オプション。



版管理がより正確に

「版管理」を利用すれば、新しい情報が追加される度にバージョンが上がり、最新版や旧版といったスタンプを文書に追加できるようになります。履歴を一元的に把握でき、次工程のミスや事故を抑制します。



Evidence Tracker

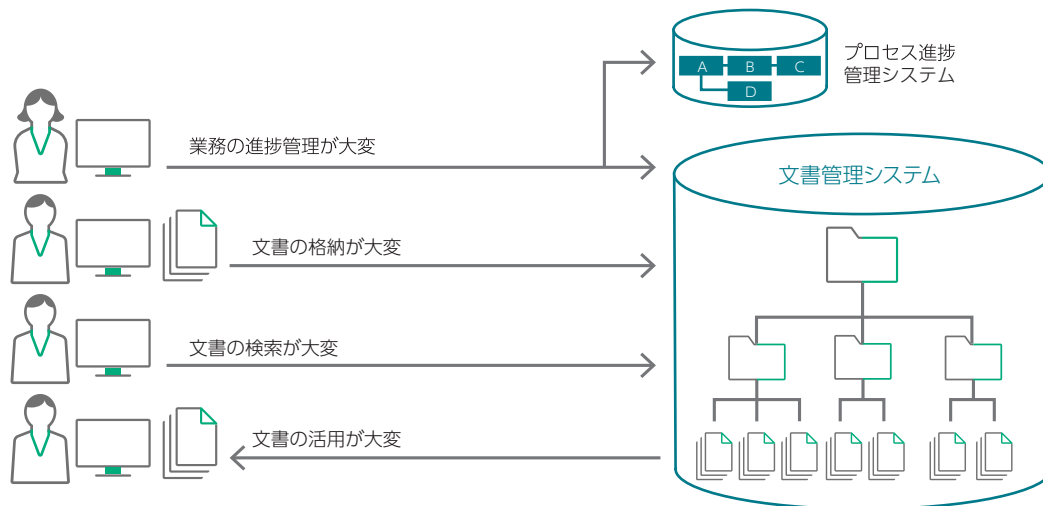
随時発生する文書も、過去に保存された文書も
業務プロセスに紐づけて俯瞰し、容易に再活用。

業務で発生する文書や証拠をベースに業務の進捗状況を“可視化”

Evidence Trackerは、業務で発生する文書を基に、業務プロセスの見える化と業務プロセス視点の文書管理を実現します。

課題 文書の整理や検索が大変

文書を証拠として管理するには、文書の管理体系を設計し、正しい階層・場所に格納する必要があります。
しかし、文書ごとにフォルダーを開いたりファイル名で検索するのは容易ではありません。

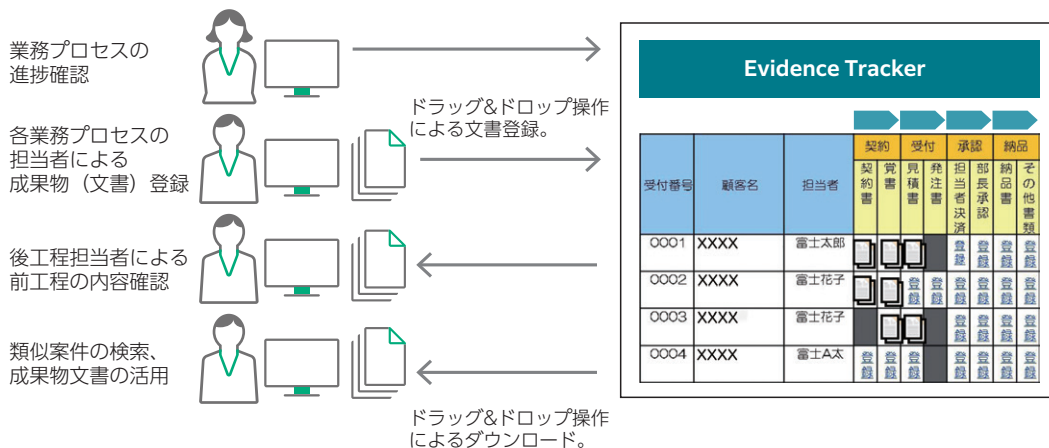


解決 Evidence Trackerなら

業務プロセスの視点で文書を自動的に整理し閲覧できます。

これにより業務プロセスの進捗確認、残業務 (ToDo) の把握、遅延業務や成果物文書のヌケモレ確認が可能に。

また、担当者が替わっても、工程内容の確認や類似案件の成果物文書の再活用を容易にするなど、仕事の伝承や標準化にも寄与します。

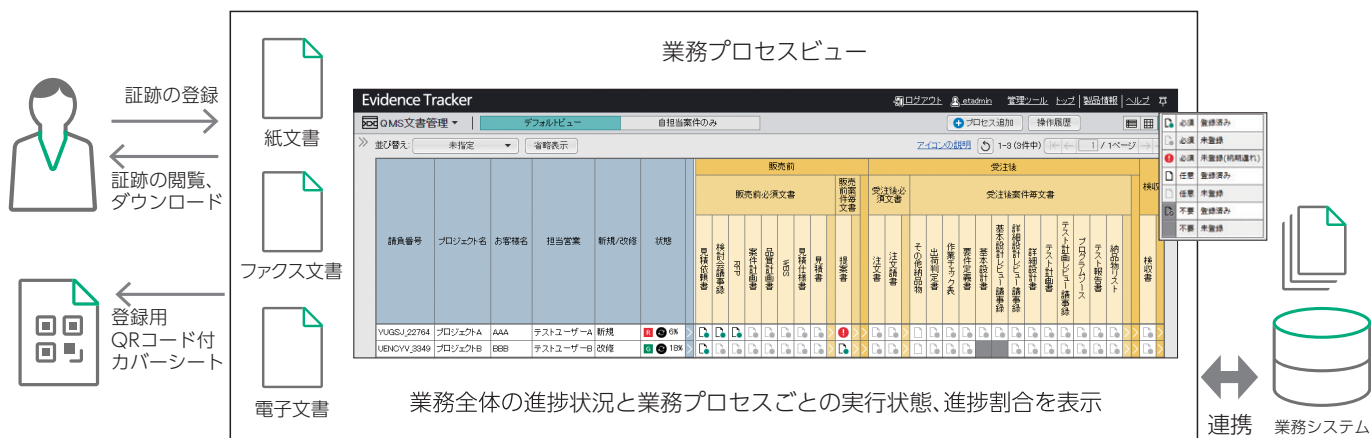


業務プロセスを確認しながら操作

業務プロセス上で発生する紙文書、ファクス文書、電子文書から、基幹業務システムデータに至るまで、証拠の登録、閲覧、ダウンロードなどの一連の操作を業務プロセスビューから行えます。業務全体の進捗状況と業務プロセスごとの実行状態、進捗割合を表示できます。

基幹システムともスムーズに連携

基幹業務システムとの連携で、新規案件情報などをEvidence Trackerに自動的に反映できます。また、ArcSuiteと連携し、業務プロセスのワークフロー承認が下りると同時に業務プロセスビューに反映することも可能です。



QRコードを使って迅速に登録・反映

登録用QRコード付カバーシートを出力できます。カバーシートを表紙にしてApeosからスキャンするだけで、直接ArcSuiteに登録可能。また登録状況はEvidence Trackerにすぐ反映できます。

※ Evidence Entryが必要です。

納期遅れを警告

業務プロセス定義であらかじめ設定された日程以内に業務が完了しないと、アラートが表示されます。

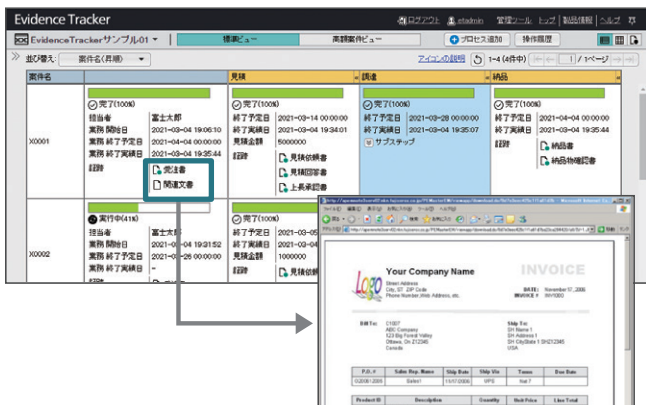
手順やノウハウが見える化し、QCDを向上

業務プロセスごとに必須または任意に必要な証拠を表示可能。業務ルール(納期、手順)を徹底するとともに、作業モレを確認できます。また、過去の業務で作成された文書の手続きや内容を開覧したり再利用を可能にすることで、業務のQCD向上に貢献します。



業務定義を簡単に作成可能

初期設定ツール画面に必要な事項を入力するだけで業務定義を作成可能。また、ArcSuiteの証拠格納用フォルダーも簡単に作成できます。



ArcSuite 動作環境

ArcSuite4.0サーバー

項目	内容
対応OS	Windows Server 2019 Standard (64ビット) 日本語版 Windows Server 2019 Datacenter (64ビット) 日本語版 Windows Server 2016 Standard (64ビット) 日本語版 Windows Server 2016 Datacenter (64ビット) 日本語版 Windows Server 2019 Standard (64ビット) 英語版*1 Windows Server 2019 Datacenter (64ビット) 英語版*1 Windows Server 2016 Standard (64ビット) 英語版*1 Windows Server 2016 Datacenter (64ビット) 英語版*1
CPU*2*3	インテル® Xeon® プロセッサー E3-1220 v2 3.10 GHz相当以上
ハードディスク容量	30 GB以上の空き容量*4 インストール時は、ハードディスク ドライブの種類*5が512バイトネイティブもしくはAdvanced Format (512E)で、NTFSフォーマットに限る。
メモリー容量	[ArcSuiteを1台のサーバーにインストールする場合] 6 GB*6 [ArcSuiteを2台以上のサーバーにインストールする場合] - コンポーネントサーバー:2 GB*7 - リポジトリサーバー:6 GB*7
ネットワーク	インターフェイス:Ethernet 1000BASE-T / 100BASE-TX
ディスプレイ	1024×768ピクセル以上、フルカラー
Webサービス	Internet Information Services 10.0
必要なハードウェア	DVD-ROMドライブ
必要なソフトウェア	次のDocuWorks*8が必要で、 DocuWorks9.1日本語環境*9*10 次のMicrosoft .NET Frameworkが必要で、 Microsoft .NET Framework 3.5 次のいずれかのMicrosoft Officeが必要で、 [Microsoft Office文書を変換する場合]*11 Microsoft Office 365 ProPlus (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft Word 2019 (32 / 64ビット) 日本語版*12 Microsoft Word 2016 (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft Word 2013 (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft Excel 2019 (32 / 64ビット) 日本語版*12 Microsoft Excel 2016 (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft Excel 2013 (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft PowerPoint 2019 (32 / 64ビット) 日本語版*12 Microsoft PowerPoint 2016 (32 / 64ビット) 日本語版 Microsoft PowerPoint 2013 (32 / 64ビット) 日本語版

*ドメインコントローラーとして動作しているサーバーにはインストールできません。 *Microsoft OfficeのライセンスはMicrosoft社に確認の上、適切なライセンスを適用してください。 *1:日本語の言語パックが必要です。
*2:Startモデルで、ArcEPS ライトパッケージ 4.0を同じサーバーにインストールする場合:インテル® Xeon® プロセッサー E5-1410 2.8 GHz以上。 *3:搭載可能なCPU数が2ソケット以下のモデルに限られます。 *4:Startモデルで、ArcEPS ライトパッケージ 4.0を同じサーバーにインストールする場合:80 GB(900 GB以上を推奨)。
*5:4 K ネイティブ物理セクターおよび論理セクターが4096(バイト)にはインストールできません。 *6:Startモデルで、ArcEPS ライトパッケージ 4.0を同じサーバーにインストールする場合、16 GB必要。 *7:ArcSuiteを2台以上のサーバーにインストールする場合、データベースおよびドキュメント管理サービスをインストールするサーバーを「リポジトリサーバー」、ドキュメントスペースなどをインストールするサーバーを「コンポーネントサーバー」と呼びます。 *8:次のサーバーに、DocuWorksのインストールが必要です。コンポーネントサーバー・リポジトリサーバー・キャプチャリングサービスをインストールするサーバー。 *9:[DocuWorks入れ物] (拡張子が[xc]のファイル)は、文書の変換や検索ができません。 *10:DocuWorks 9.1およびDocuWorks 9で文書にフォントを埋め込む機能を利用して生成したDocuWorks文書を、DocuWorks 9.1がインストールされているArcSuite サーバーで画像に変換すると、埋め込まれたフォントではなく一部代替フォントになります。 *11:サーバーにMicrosoft Officeがインストールされていない場合でも、PDFまたはDocuWorksに変換できる設定があります。 *12:Microsoft Office 2019は、Windows Server 2019のみ対応しています。

ArcSuiteの動作環境などの最新情報については当社の公式サイトをご覧ください。

[more info fujifilm.com/fb/product/software/arcsuite](https://www.fujifilm.com/fb/product/software/arcsuite)

FUJIFILM

富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

お問い合わせは
0120-27-4100

受付時間: 土、日、祝日および当社指定休業日を除く9時~12時、13時~17時。フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながりません。 *お電話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

この商品に対するお問い合わせは、下記の営業担当へ…

●記載内容及び商品の仕様、外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。また、商品の色調は、フィルム、印刷インキの性質上、実際の色とは異なって見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ●FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。 ●ArcSuite、ArcEPS、ApeosWide、DocuWorks、Working Folder は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。 ●Microsoft、Windows、Excel、PowerPoint、Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。 ●Intel、Intel Core、Intel Core、Intel Coreは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標または登録商標です。 ●その他の社名または商品名等は、それぞれ各社の商標、または登録商標です。

この印刷物は環境に配慮した用紙を使用しています。この印刷物の内容は2021年12月現在のものです。 DGE-1439 2112